

撰一て一字に安んずる一内より尚來の化
辱を勉め即ちハ武勇の譽を馳せし由土を
安んずるハ大難刀難を払い七祐を授け神祇
なりと示し一あむ伊豆と云え信心の肝膽を
辟き別時の強者を用ゐる中より一あむ神
祇神像を撰一社壇を造営一佐料を奏
する事と号せしとあり今每秋郡中ハ大札
を出し一初穂を交て神佐料とせし羽澤記乃
報穀なることありあむととい一とも所見の類と
記して志村氏も穀をこれ一事を吾輩に

あむ事とのこと本年酒田所一町毎小虎倉
を建て秋葉山大権現と稱し一火災消滅を
祈り威應なく一して却て大災は遂に事
程う度云々吾輩を見りて幸州秋葉山禪
宗古伝二十石余本寺親者祐と云ふ大天
狗とあり天神地祇の内はあむされハ西史
神系も亦も見一は秋葉山大権現と稱し
るハ古傳の礼と稱し一なり一是等神社
の火災を退めふ事ハお供は明白之秋葉と
敬むる心を以て阿當護社一神を奉る事